

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①言語活動を授業に位置付け、自分の考えを表現・交流する授業を行う。② 自他を認め合い、生かす授業を行い、自尊感情を高める授業を行う。③ 家庭学習で繰り返しの練習を行ったり、算数少人数・習熟度別指導を行ったりすることにより、学習の定着を図る。④ 解決の見通しをもつよう、めあてやまとめを黒板に提示する。	①重点研究の国語を始め、授業の中で、自分の考えを表現・交流する授業を行った。引き続き、行っていく。②授業の中で教師・子供同士、ほめる場面を意識していき。③家庭学習では、各学年宿題プリントを出して取り組んでいたが、漢字の習熟がもう少しである。④めあてやまとめを黒板に提示する授業が多くなってきた。	B	確かな学力	b5			確かな学力	c5		
豊かな心	①年間に1回保護者に公開授業を行い、懇談会などで道徳教育について、共通理解を図る。②「なかよしタイム」や「ペア集会」を中心に、異学年の交流を意図的、計画的に行うことができるようにする。③校内研修会や計画表(別業)をもとにした授業実践を通して、効果的な指導に努める。	①実際に行った授業をもとに、日常の子どもたちへの投げかけや、家庭での様子を話し合った。②異学年交流の場を大切に、なかよしタイムの仲間と交流を繰り返すことで親密な関係を築くことができた。③現在ある計画表(別業)の見直しを行うとともに、これからの道徳教育についての共通理解を図った。	B	豊かな心	b6			豊かな心	c6		
健やかな体	①体育科では、体力の向上を目指すために、一人ひとりの運動量を十分に確保し、体力テストの握力を3ポイント上げる。②「ぐるなわタイム」や「学年スポーツ大会」などに取り組み、体力向上を目指す。③食に関する指導を各学年計画的に行い、食の大切さを学ぶ。	①代表委員会などで、体力アップの具体的手立てを話し合うなど学校全体で体力向上にむけ、取り組んだ。②「ぐるなわタイム」や「学年スポーツ大会」を計画し、体力向上のきっかけ作りに取り組んだ。③各学年の教育課程と絡ませ、栄養教諭と連携しながら指導することで、食の学びを深めることができた。	B	健やかな体	b7			健やかな体	c7		
児童指導	①年間生活目標を各所に掲示し、全職員が「すすんであいさつ」をする。また、児童代表委員会をさらに充実させあいさつ運動を推進する。②3か月ごとの生活目標を設定。各クラス行動目標を考え実践して児童による自治活動にし、きまりを守る意識を高める。③毎月いじめミニアンケート年2回YPアセスメントを実施し児童理解に努める。	①児童代表委員会自治の下、なかよしタイムクラスで輪番にあいさつ運動を実施し児童の関心が高まった。②生活目標は、学年ごとに重点項目を確認し各クラスで行動目標を設定した。朝会での児童の取組発表で児童の意識が高まった。③毎月のいじめアンケートで早期発見、未然防止に努め、全職員で共通理解した。	B	b1				c1			
特別支援教育	①一般級と個別支援級の連携強化に向けて、合同打合せを積極的に行う。②全学級の学習環境整備を全員で見合い、ユニバーサルデザイン教育を推奨する。③児童のニーズに応じて、特別支援委員会で検討会を開き、支援を行う。④全職員で特別支援研修を年2回行い、児童の個性の理解に努める。	①クラス担任と個別支援級の担任が連絡を密にし、情報交換が行われた。②学年研などを教室で行うときに、各学年で教室環境を見合う機会を設ける。③児童・担任のニーズに応じて検討会を開き、支援を行った。④計画的に研修が行われ、児童の個性の理解が高まった。	B	b2				c2			
教育課程・学習指導	①体験学習では、学年の特性や発達段階に応じた体験学習の活動を計画し、児童が自発的に課題解決に取り組めるようにする。②継続的な読書活動・読み聞かせによる読書習慣を身につける。学校司書の常時配置により、調べ学習などにおける、図書資料の活用等を幅広くおこなえるようにする。	①各学年の学習内容や特性、発達段階に応じた体験学習の活動内容を精査した。②地域のボランティアによる定期的な「おはなし会」の実施、テレビ放送での図書委員会による読み聞かせと全校で感想交流を行った。学校司書と連携して、調べ学習に関連する図書資料を多方面にわたり準備し、有効に活用した。	B	b3				c3			
				b4				c4			
人材育成・組織運営	①10年未満経験者による自主的な指導力向上研修(メンター研修)を月1回設け、様々な職員で関わるようにする。講師を招いて教科の研修を行ったり、研究授業に取り組んだりする。②長期休業中などに職員の希望する研修を行い、指導力を磨く。	①4月に顔合わせを行い、活動目標や研修内容を決定し、今年度は国語の授業のやり方や食育について話を聞き、授業後は協議を行った。また、夏休みは、各教室を回って、様々なクラスの教室掲示を見学してそれぞれ参考にした。②長期休業中は、講師を招き、障害物のゲームの行い方などの体育の研修を行った。	B	人材育成・組織運営	b12			人材育成・組織運営	c12		
ブロック内相互評価後の気付き	・あいさつ運動を子どもが主体となって計画して取り組んだ結果、児童の達成感が高まったので継続してほしい。 ・体力向上の「ぐるなわタイム」は、毎週継続して取り組むことにより、体力向上するとともにクラスの絆が深まっていてよい。 ・学校司書を中心として、学習に関連する本を閲覧できるような環境づくりをしていることは、さらに充実させてほしい。			ブロック内相互評価後の気付き				ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価	・児童があいさつ運動することは有用である。子どもが地域とどれだけつながっているのかが疑問である。あいさつを通して地域の顔見知りを増やせるとよい。 ・児童が明るくなったように思う。 ・読書、あいさつ、体力向上の取組は工夫されていてとてもよい。子ども主体の取組という点もよい。今後はタブレット等の情報機器の活用もできるとよい。 ・食育を環境問題と結びつけて指導することが大切で、家庭でも取り組む必要がある。			学校関係者評価				学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り	・重点研に国語科を取り上げ、言語活動に視点をのいた学習を進めてきた。自分の考えをもち表現し合う子どもの姿が見えてきている。基礎基本の定着と合わせて、今後も研究実践をしていきたい。 ・毎月のいじめアンケートの取り組みから、事業の早期発見、対応することができている。職員もこの取り組みの有効性を感じており、今後も継続実践していくことの共通理解をしている。 ・教育活動の重点項目として、「読書活動」「あいさつ」「体力づくり」を取り上げた。保護者、地域からも大切な視点として評価を受けており、本校の大切にしたい視点として次年度も継続していく。			学校経営中期取組目標振り返り				学校経営中期取組目標振り返り			